

★12月議会 一般質問概要

●：質問させていただけたもの ○：時間の都合上、質問できなかったもの

議席番号4番久松祐樹です。議長より発言の許可がございましたので、通告書に従いまして、私の町政に対する一般質問をさせていただきます。

質問事項1 「デジタル教育の進展による学力・思考力への影響と、既存の教育政策の再評価について」

質問要旨 先行してデジタル化を進めたスウェーデンやフィンランドといった教育先進国では、児童生徒の学力や集中力、精神面への悪影響が顕在化したことから、紙の教科書への回帰を決断するなど、方向転換が進んでいる。また、日本国内でも、デジタル教材に過度に依存することによって、児童生徒の読解力や思考力が十分に育まらない懸念が指摘されている。特に、画面操作やリンク動画による効率的な学習が、実は「試行錯誤」や「自力での発見」といった教育の本質を失わせているとの声もある。教育の目的は、実社会に出たときに、仕事ができ、社会的にも尊敬を受けるような人間、自分が今までに受けたご恩を、世の人々にお返ししていける人間、自分さえ良ければ良いではなく、世のため人のために尽くす人物を育てていくことであり、地域の子どもたちにとって本当に望ましい教育環境のあり方を主体的に検討すべき時機に来ていると考える。そこで以下伺う。

- (1) デジタル機器の有用性に対して、児童生徒からはアンケート調査を実施されているが、教員や保護者からのフィードバック体制は構築されているか。
- (2) デジタル学習の常態化が、児童生徒の集中力、読解力、思考力、筆記能力などに与えている影響について、どのように認識されているか。
- (3) 視力、姿勢、精神的ストレスといった健康面への影響について、どのように把握されているか。特に、不登校やいじめとの関連について、因果関係の検討や実態把握は行われているか。

(4) デジタルとアナログ、それぞれの特性や教育効果を踏まえた最適な組み合わせを、学校現場の裁量で柔軟に選択できるような環境整備は進められているか。

(5) デジタル教材と既存の教育手法について、現場における教育効果と統合的に捉えながら、教育内容を継続的に洗練させていく仕組みが必要であると考えます。当町では、そのような再評価と改善のサイクルをどのように構築しているか。

(6) 当町において、デジタル教育は「確かな学力の向上、豊かな心と健やかな体の育成」にどのように生かされていると考えているか。

(ご答弁)

(再質問)

杉戸町と姉妹都市であるバッセルトンがあるオーストラリアでございますが、12月10日から、法律で16歳未満のSNS利用が禁止されます。オーストラリアでは、子どもがSNS上でのいじめを苦に自殺をしたり、詐欺や性暴力などの犯罪に巻き込まれるなど事件が相次いでいます。その中、学校側が保護者に、子どもにスマホを持たせたいかを調査したところ85%が持たせたくないと回答したデータもございます。学校でのSNS上でのいじめ被害から、SNSのアルゴリズムについて、子どもたちにとって「もはや飲酒や喫煙と同等に有害だ」と校長先生が指摘されたりもしております。ある男子生徒は「いつも下を向いて誰かにメッセージを送ったり、ゲームをしたりしている。自分たちがやるべきなのは、直接会話し、交流することだと」と話しており、全くその通りだと思います。当町におかれましても、子どもたちがデジタル機器とどのように向き合い、どのように活用していくかは、とても重要だと考えております。

●町の発展に学問は不可欠です。教育が町の未来を創と考えておりますが見解を伺います。

(1)

○令和7年3月議会の一般質問で、児童生徒にアンケート調査を実施し、タブレット端末の有用性について97.6%の児童生徒が役に立つと活用に対して肯定的に捉えているということでございますが、児童生徒の学びにプラスになっているかは誰がどのように分析されているのか伺います。

○教員からのフィードバックですが、どのような意見が出たり協議が行われているのか伺います。

●保護者からのアンケート調査は実施されていないということですが、実施されていない根拠を伺います。

●保護者の方々がデジタル教育をどのように感じていらっしゃるのか把握するためにアンケート調査は実施されたほうが良いと思います。調査内容としてそもそも「子どもたちにタブレット端末を持たせたいのか」「心配されていることや気になることは何か」この2点しっかり聞き取っていただきたいのですがいかがでしょうか。

●保護者からは学校評価アンケート等でどのようなご意見をいただいたのか伺います。

●そのご意見へどのように対応されたのか伺います。

●「タブレット端末の活用状況等をお伝えし、御理解いただいている」ということでございますが、お伝えしているから御理解を得ているというのは一方的だと感じております。御理解をいただいていることの根拠を伺います。

(2)

○タブレット端末のみに頼ってしまう学びを危惧しており、デジタル学習のみ偏らないように引き続き、学校に指導していくということですが、現在は具体的に何をどのように指導されているのか伺います。

○デジタル偏重を危惧しているということですが、読解力・思考力・筆記能力などのアナログ能力をどう定量的に把握されているのか伺います。年度比較や学校間比較など、指標を用いた分析はされているのか伺います。

(3)

○ご家庭におけるゲーム等の使用も加えての課題であり、学校医や養護教諭と連携し、児童生徒の健康観察を継続的に実施していくということですが、健康観察の前に、デジタルと機器をどのように使っていくかを伝え、健康を害さない取り組みが大事だと思いますが、健康を害さないように、どのような取り組みがされているのか伺います。

○児童生徒・保護者と考えていくということですが、保護者とは具体的にどのように考えていくのか伺います。

●健康面について、ご家庭でのゲームも含むため課題が複合的ということですが、だからこそ、学校での端末使用による影響を独立して測る仕組みが必要ではないでしょうか。どの時間帯、どの用途、どの端末で、どの程度の負荷がかかるのか、学校側で測定する考えはあるのでしょうか。

●不登校に関して、直接的な要因となっている事例は確認されていないということですが、因果関係の証明は極めて難しいものと考えております。直接的要因の不登校は無いという根拠は何でしょうか。

●不登校になってしまった後、ネットゲームにはまったり等が考えられますが、デジタル機器が不登校のきっかけだけでなく、抜け出せない要因にはなっていることはないか伺います。

○いじめに関して、認知されており、ご家庭と連携して注意深く見届けを行っていくということでございますが、解消に向けての何が課題であり、その課題をどのように解決していくのか伺います。

(4)

○各校でデジタル教材と紙媒体を併用しておりますが、各校での成功事例などを共有できる仕組みづくりであったり、教育委員会に集約したりはされているのでしょうか。

○何をデジタル教材にして、何を紙媒体として適切に使い分けるか、私もとても大事なことだと考えます。今後も、両者の良さを両立させた授業改善ということですが、現在はデジタル教材と紙媒体をどのような基準で使い分け、両立させているのか伺います。

○各校に任せているということですが、デジタルとアナログのバランスは教育効果への影響が大きく、学校間格差を生む懸念があります。使用割合のガイドラインや最低限のアナログ時間の基準を設定する考えはあるのか伺います。

(5)

○町内の全教員が開催校の授業を参観されている学力向上プロジェクト公開授業研究会でございますが、とても素晴らしい取り組みだと思います。(1)のご答弁の教員からのフィードバック体制の構築で、意見交流や協議も重ねていらっしゃると思いますが、デジタル教育の効果をどう測るかが大事であり、話し合いをすることが政策効果ではないと考えております。実際に何が改善され、何が伸びたのか、アウトカムが大事だと考えます。教育効果の成果指標（KPI）は設定されているのか伺います。

(6)

○確かな学力の向上に寄与しているということですが、その根拠となるデータを示していただきたいです。町内の学力検査・全国学力テスト・学習時間・理解度など、どの指標の改善をもって寄与と判断されたのか伺います。

デジタルの強み、アナログの強みを生かして、それぞれの住み分けをしていただきたいと思います。教育は町の未来を創ります。知識や技術の習得はもちろん大事ですが、より一層、精神性の向上も大事にした教育をしていただきたいと強く要望させていただきます。

質問事項2「モデル事業として、3D プリンター建築の早期導入を」

質問要旨 2025 年 9 月議会の一般質問で、当町の公共施設の更新に 3D プリンター建築を活用することを提案した。「一般的な工法となった際、課題解決の手法の一つである」とご答弁をいただいた。2025 年 10 月 30 日、セレンディクス株式会社へ視察に伺い、当町での 3D プリンター建築の活用に対して、前向きなご回答をいただいている。あとは当町で実施するかしないかであり、モデル事業としての早期導入を提案するが見解を伺う。

(ご答弁)

セレンディクス株式会社を簡単ではございますがご紹介させていただきますと、「車を買う値段で、家を買う」こと掲げ、3D プリンター住宅の事業化を日本で初めて実現いたしました。JR 西日本から「終電から始発までの間に駅を新しくできないか」というお願いで完成したのが初島駅でございます。素材にモルタル（コンクリート）を使用しており、40N 以上の強度があり、阪神淡路大震災くらいの地震でも壊れない、火災の際は燃え広がらない、耐用年数は 100 年（鉄筋がなければ 2000 年持たせることも可能）で、長持ちする、電気・水道・ガスといったライフラインへの接続に問題なくできる、工場で建設用ロボットプリンターを用いて、基礎一体型でつくられ、プリンターにデータを出力してから初島駅が開設されるまで 1 週間であり、現場での施工は 4 人で 2 時間半というスピードで完成しました。施工時間の短縮によるコスト削減もあり、大幅な建設コスト削減を実現されております。ありえない、できるはずがない。

そう言われていたことを実現するためことを使命としていらっしゃいます。

(再質問)

○国における法規制の整備が進んでいないということですが、当町が先進地域となり、国に要望していくのはいかがでしょうか。

●現在、当町において当課が把握している施設の新設や建て替えの計画はないということですが、令和7年9月議会で、目標としている築年数が超えている公共施設に、西幼稚園、消防団の分団小屋（1分団・4分団から8分団）の7施設あります。調査研究を行い比較検討していくということですが、町全体として、町の建築物を一括で把握できる体制や知見を共有できる場が必要かと思います。そのような体制は構築されているでしょうか。

●当町の公共施設を一元管理できる体制が必要だと考えます。例えば、久喜市ですとアセットマネジメント推進課が公共施設を一元管理されております。現在、当町では各施設を施設所管課で管理されておりますが、担当されている施設以外の状況は把握しづらいところがあると思われます。どの公共施設を優先的に更新していくかなど一括して管理できる体制の構築が必要かと考えますがいかがでしょうか。

●「杉戸町個別施設計画」を基に、更新が必要な際には、3Dプリンター建築を選択肢のひとつとして、建築課から施設所管課に積極的に提案されていくことは可能でしょうか。

各施設を所管されている課で、施設の新設や建て替えをされる際には、3Dプリンター建築を新しい選択肢として入れていただき、建築課と連携を図りながら、コスト面などを十分に精査して、よりよい施設の維持管理をしていただきたいと思っている次第です。セレンディクス株式会社を視察させていただいた際の政務活動報告書も作成中ですので、こちらも後日ご高覧いただけますと幸いです。

公共施設以外にも様々なところで活躍できる技術だと考えております。話題性もある

と思われますし、杉戸町に人を呼び込む一助にもなれると思っております。コスト削減という面での歳出、町の活性化という面での歳入、どちらにも貢献できる可能性を大いに秘めていると考えておりますので、モデル事業としての早期導入を強く要望させていただきます。

質問事項3「下野久喜線の今後の見通しは」

質問要旨 2025年11月5日の全員協議会で、「下野久喜線整備事業に係る筆界未定地について」のご報告をいただいた。下野久喜線の今後の見通しに対して、以下を町長に伺う。

(1)「筆界未定地にあるすべての境界と区画を決めなければならないため、一度に解消することは難しく時間を要することが想定される」ということだが、下野久喜線整備事業を今後どのように進めていかれるのか伺う。

(2)町内にある既存道路には、修繕が十分に行き届いていない箇所が散見される。このような状況のなか、下野久喜線を開通させることが、町の活性化や交通利便性の向上にどの程度寄与するのかについては、慎重な検討が求められる。限られた財源の中で、既存道路の維持・補修と新規整備との優先順位をどのように判断しているのか。また、本路線の整備を町全体の地域構想や道路ネットワークの中でどのように位置づけているのか伺う。

(ご答弁)

(再質問)

再質問におきましても、窪田町長にお伺いします。

(1)

●筆界未定地が判明したのはいつか伺います。

●筆界未定地が判明した時期を、令和 7 年 11 月 5 日の全員協議会の資料に明確に記載しなかったのはなぜか伺います。

●判明後すぐに、議会へ報告するお考えはあったのか伺います。

●筆界未定地が判明してから全員協議会まで、ご報告までの時間がかかっており、全員協議会では筆界未定地について調査をされていた、法務局と協議を重ねていたということですが、調査や協議を進めることで、筆界未定地を解消できる可能性はあったのか伺います。

●「下野久喜線道路詳細設計業務委託料」1491 万円の皆減を示されましたが、筆界未定地を把握されている上で、令和 7 年度予算に計上されたのはなぜか伺います。

○筆界未定地を解消してから、予算に計上するお考えはあったのか伺います。

●令和 7 年度の予算編成時、当委託料と他の事業との兼ね合いをどのように判断されたのか伺います。

○本定例会で皆減を示されましたが、今後、本委託料など下野久喜線の開通に向け関わる事業の予算計上はどのように考えていらっしゃるのか伺います。

○今後について、筆界未定地の解消に努め、下野久喜線の早期開通に向けて取り組まれていくということですが、筆界未定地の解消にかなりの時間を要すると全員協議会でございました。それでも、筆界未定地の解消を最優先して早期開通に向けて、進めていくということよろしいでしょうか。

○筆界未定地の解消に努めていくということですが、久喜市による橋の施工時期が明

確になった際には、昌平高校・高等学校前の町道 502 号線を活用した暫定整備について検討する必要があるとご答弁がございました。暫定整備の検討が必要になった場合、筆界未定地にはどのように対応されていくのか伺います。

○土地所有者 7 名との相談状況を伺います。

●ご参考までに、久喜市の梅田市長が SNS で発信された内容には、「両自治体の周辺道路の築造が出来次第、大落古利根川の橋梁架設を行ってまいります」と発信されており、久喜側も杉戸側も大落古利根川までの道路をつくることができれば、橋梁を架けると認識しております。一方、当町としては「筆界未定地の解消に努めますが、久喜市による橋の施工時期が明確になった際には、昌平高校・高等学校前の町道 502 号線を活用した暫定整備について検討する必要がある」ということでございます。大落古利根川までの道路ができなければ、橋は架けませんというのが久喜市側のお考えかと思えます。筆界未定地の判明や昌平高校・高等学校前の道路を活用した暫定整備について、久喜市の梅田市長からはどのようなご回答をいただいているのか伺います。

●久喜市の梅田市長と下野久喜線の現地視察を行われたと認識しておりますが、今後の見通しについて、どのようなことが話し合われ、定まったことはあるのか伺います。

●仮に用地取得が完了した後の具体的な施工時期など開通に向けた暫定的なスケジュールは久喜市と話し合っているのか伺います。

(2)

○下野久喜線は窪田町長の公約事業でございますが、道路をつくることが目的にならないと思います。道路をつくることは目的ではなく手段であり、下野久喜線が開通することによって、町をどのように発展繁栄させていくかが大事であると考えております。どのように考えていらっしゃるのか伺います。

○下野久喜線の開通で利便性の向上が期待できるということでございますが、KPI の設定は進められているのでしょうか。

○「他事業とのバランスを図りつつ、財政の健全性に配慮しながら、下野久喜線の整備を進めていきたい」ということですが、何を基準にして、他事業とのバランスを図っていくのか伺います。

○下野久喜線の開通により、当町の利便性向上が期待できることは認識しましたが、久喜市にどのようなメリットを与えられるかも大事だと思っております。下野久喜線の開通は久喜市にどのようなメリットを与えられると考えているのか、または目指されていきたいのか伺います。

●もちろん公約も大事ですが、杉戸町の未来を第一に考えて、将来に向けての投資をしていただきたいと強く思っております。町長の見解を伺います。

杉戸町の未来を第一に考え、柔軟に方向性を決めていただきたいと強く要望させていただきます、私の一般質問を終わります。